

9. その他

(1) 緊張作業における安全対策について

緊張作業においては、一般的に定着具近傍のコンクリート破壊等は想定していないことから、当現場においても側方の安全対策は講じられていなかった。

しかし、今回の事故は定着部のコンクリートの破壊により緊張ジャッキが横振れしたため、人身事故に至ったものと推定される。

このため、今後はこの事故を教訓とし、緊張作業においては後方の安全対策に加え、ジャッキ加圧中は万一の事故に備えてジャッキ周辺には立ち入らないなどの側方の安全対策が必要と考える。

なお、PC鋼材の伸び量測定については、自動計測システムの開発が進められていることから、当該システムの普及による伸び量測定の無人化が期待される。